

月刊島民

橋を渡る人の「街事情」マガジン

中之島

Vol.56 2013 3/1

●iPadサイズ(と、ほぼ同じ)



ナカノシマ大学

「中之島の歌
ザ・ベストテン」

輪島裕介

申し込み受付中!

キャンパスが
あった頃。

キャンパスがあった頃。

月刊島民随一の人気連載、久坂部羊さんの「中之島ふらふら青春記」がこのほど単行本として出版された。そこで今回は、青春記の舞台となった阪大医学部のキャンパスがまだ中之島にあった頃をふり返ってみる。

久坂部さんが大学に通っていたのは、1970年代後半から1980年代初頭にかけて。学園紛争は終わり、バブル景気もまだ訪れていないこの時代は、まるで空白期間のように、自由でゆるい空気が流れていた。



吹田への移転の前年にあたる1992年に、阪大医学部が発行した絵葉書の写真。後ろに見える大阪市立科学館とのコントラストが何とも言えない。提供／大阪大学大学院医学系研究科

郷愁と若気の至りと。

連載を本にまとめるにあたって、改めて読み返したわけですが、やっぱり郷愁というか、「自分にもこんな純粋な頃があったんやなあ」と感じ入ってしまったね。忘れていた出来事や気持ちをとくさん思い出させてくれた、そんな連載でした。

中之島界限で過ごしたのは1970年代半ばから80年代初め頃。当時の学生は「しらせ世代」とか、無気力・無関心・無責任の「三無主義」なんて言われ、特に私なんかは文学に情熱を傾ける「文系医学生」でしたから（笑）、医者になるためよりも、文学的な、人間への興味で医療を見ていた。そうすると、患者さんにとっては非情な現実や大学病院の論理があり、そのことに怒ったり悩んだりしていたわけです。

でも実際医者になって何年も経てば、次第に現実が見えてくるし、すべての

『ブラック・ジャックは遠かった』刊行記念
久坂部羊さんが語る

中之島に「青春」があった頃。

今特集のヒントになったのは、久坂部羊さんの新刊『ブラック・ジャックは遠かった 阪大医学生ふらふら青春記』である。本誌2009年5月号から40回にわたった、連載「中之島ふらふら青春記」をまとめた著者初の本格エッセイ集。その刊行を記念し、久坂部さんに学生時代を振り返ってもらった。

取材文／松本創（本誌）

「中之島の阪大医学部での日々は、未熟さも含めて、自分にとっては大切な時代でした」



『ブラック・ジャックは遠かった 阪大医学生ふらふら青春記』（1,470円／140B判）
一浪の末に名門・大阪大学医学部に合格した久坂部青年だったが、入学後はすっかり落ちこぼれに。授業はサボリ、試験はカンニング、暇さえあれば旅に出て、将来は作家になりたかった。アホで夢見がちで貧乏で、でも根拠のない希望に満ちていた学生時代。今や絶滅した「昭和の医学生」のふらふらぶりと純粋さに、新鮮な感動と憧れを覚えるはず。

幸福だった、あの頃の青春。

患者さんに感情移入するなんて不可能だということもわかってくる。逆に、過剰な「名医幻想」が医療を難しくしていることだってあるわけで、今では「医療への期待値を下げよう」なんて、当時の想いからすれば退廃的なことを（笑）書いたりしているわけですが。

しかし、「まったくわかってなかったなあ」と感じる未熟さも含めて、自分にとっては大切な、ある意味、幸福な時代だったのかも知れません。当時は、医学部でも今ほど厳しくはなく、私のように勉強しない学生でも許容される雰囲気があったんです。「落ちていくのは、あいつの勝手や」って（笑）。そういう自由な空気の中で、放浪の

〈阪大医学部略年表〉※適塾の展示年表を参照

- 1838（天保9）緒方洪庵が瓦町に適塾を開塾。後に現在地に移転。
- 1849（嘉永2）大坂除痘館にて洪庵が種痘事業を始める。
- 1862（文久2）洪庵、幕府に請われ江戸へ。翌年、急死。
- 1867（慶応3）大坂除痘館が幕府の公館に。
- 1868（明治1）大坂仮病院開設。
- 1869（明治2）政府は緒方惟準に、仮病院ならびに医学伝習の御用始めの沙汰書を出す。
- 大阪府はポドワイに仮病院での治療伝習を命じる。
- 上本町の福寺に緒方惟準を院長とする大坂仮病院が発足。
- 大坂府病院が竣工、大坂仮病院は廃止。
- 大阪医学校が開校され、大坂府病院は大坂医学校病院に。
- 1870（明治3）大坂医学校及び病院は大学の直轄に。
- 1873（明治5）北御堂に大阪府立病院設立。
- 1879（明治12）中之島の広島藩屋敷跡に病院を新築して移転。大阪公立病院に。
- 1880（明治13）府立大阪病院と改称。
- 教授局を分離し、府立大阪医学校とする。
- 1888（明治21）府立大阪病院を廃し、府立大阪医学校を大阪医学校と改称。教授部と病院を設置。
- 1901（明治34）本校を大阪府立医学校、病院を大阪府立医学校病院と改称。
- 1903（明治36）●学校を大阪府立高等医学校に、●病院を大阪府立高等医学校病院に改称。
- 1915（大正4）●大阪府立高等医学校を府立大阪医科大学と改称。
- 1919（大正8）●大阪医科大学の設置が認可される。●病院も大阪医科大学病院と改称。
- 1931（昭和6）●大阪帝国大学開学。医科大学は医学部に。
- 1947（昭和22）国立総合大学令の公布により、新制大阪大学に改組。
- 1981（昭和56）●適塾の修復が完成。
- 1993（平成5）●医学部と附属病院が吹田へ移転完了。
- 2004（平成16）●中之島のキャンパスがあった場所に、大阪大学中之島センターを開校。

左／医学部校舎内の様子。廊下（2階）はいかにも年季が入っている。右／第3講義室。前には骨格模型が置かれている。提供／大阪大学大学院医学系研究科



旅に出てみたり、絵や小説もどきを創作したり、友達と飲み会やスキーに行ったり、中之島のキャンパスを足場に、文字通りふらふらしていたわけです。まあ、阪大生というのはもつさりとは垢抜けなくて、「付き合うなら神大生、結婚するなら京大生、阪大生は引越越し手伝い要員」なんて言われてましたけども（笑）。

個人的な想い出話なんか書かせてもらってよかったのかな、読者に申し訳ないと思う部分も当然あるのですが、私にとっては、初めて自分自身について書いた本。とりわけ愛着の深い1冊になりました。



ずっと行けなかった、母校のルーツを訪ねる。 適塾初訪問記 久坂部 羊

は世の常だろう。伴教授は何度か適塾の見学ツアーも企画されたが、私は一度も参加しなかった。

以来、適塾は近くて遠い存在で、手塚治虫の『陽だまりの樹』を読んだときにはかなり興味を惹かれたものの、足を運ぶことはなかった。このまま訪ねることはないかと思っていたら、ひょんなことから『月刊島民』の企画で訪問することになった。

恐怖を感じたこと、塾生の大部屋は天井がなく、屋根裏がむき出しで、中央の柱には刀傷や削り痕のようなものが無数にあること（『陽だまりの樹』では大鳥圭介が斬りつけたことになっている）、ツーフ部屋は天井が傾いていて頭がつかえそうなことなどである。



小学校何年生だったか忘れたが、国語の教科書に「ツーフ部屋」のことが出ていた。江戸末期、蘭学を学ぶ若者が「ツーフ・ハルマ」という辞書を引くための部屋で、辞書は塾に一揃えしかなかったため、塾生たちが夜中も列をなして熱心に勉強したと書いてあった。そんなにまでしてよく勉強するなど、あきれたのを覚えている。それが適塾の話だというのはあとで知った。

大学に入ってから、適塾が母校の源流であることは知っていたが、特段の興味も湧かず、緒方洪庵の名も大塩平八郎ら江戸時代の著名な大坂人ぐらいの認識しかなかった。

中之島の医学部で専門課程の講義がはじまったあと、解剖学の伴忠康教授が「適塾記念会」の活動に熱心で、よく講義中に適塾の話をしてもらった。我々学生に母校の由緒を教え、誇りを持たせようとされたのだらうが、へそ曲がりな私は、「適塾がナンボのものじゃい」というぐらいの気持ちしか湧かなかった。ありがたいがらせようとすると、逆に反発するの



実際に足を踏み入れてみると、思った以上に発見があった。訪ねたのは2月の寒波襲来の日だったが、室内も屋外と同じくらい寒いこと、2階への階段が斜度60ほどもあり（下りはほぼ垂直に見える）、しかも1段の高さが30センチ以上あって、上り下りに

『ツーフ・ハルマ』も展示されていたが、よく見ると単語の対訳ではなく、数語のオランダ語に和訳がついている。オランダ語が2行なのに和訳は1語だったり、オランダ語をカタカナ表記にしただけみたいな訳もあり、かなり使いにくかったのではないかな。

福澤諭吉の『福翁自伝』によると、塾生たちは夏はフンドシもつけない素っ裸で、シラミもわき放題だったようだが、さして広くもない空間に、多くの塾生がひしめいていたのも夢の跡という気がしないでもない。小さめの畳や鉛色に光る柱には、外面は野蛮ながら、内面に高い知性と志を秘めた若者の息吹が微かに染みついていようだった。

母校とのつながりは、相変わらず感じられなかったが、当時の生活をしのび、歴史の重みを実感したのは、私がそれだけオトナになったということかも知れない。

わたしの中之島 キャンパス物語。

中之島にあった阪大医学部にゆかりのある人たちが、思い出深い場所を再訪。ガロのヒット曲「学生街の喫茶店」よろしく、当時をふり返ってもらった。

取材・文／大迫 力(本誌)

「医者になるには、中之島にあった頃のように、街に近い場所で学ぶ方が良いでしょう」

千林の自宅から淀屋橋駅まで京阪電車に乗って、土佐堀川沿いの遊歩道を歩いて通っていました。当時は大阪大学の本部も中之島にあって、その目の前のビルには食堂や喫茶店、地下に「アイーダ」という雀荘があったんですよ。ビルの名前が飯田（IIDA）ビルやから「アイーダ」やったんちゃうかなあ。そこに入り浸って、雀荘の鍵を預かっている同級生もいましたね（笑）。今も看板がありますが、「大矢商店」という水屋さんが夏にはかき氷をやっ

てくれていた。1980年代くらいまでは、そういう学生向けの店もちょこちょこありましたね。

中之島での専門課程の授業が終わって阪大病院での研修が始まると、福島の方へもよく行きました。豚カツの「ジミー」には、白衣を着たままよく食べに来ましたね（本当はダメなんです）。昔、「タゴール」という朝早くからやっているカレーショップがあって、当直明けに大勢で食べたの思い出あ。

中之島にあった頃は、飲みに行ったり、映画を見に行ったりできたし、街の人たちにも医学生を「育ててあげよう」というムードがあった。医者になるには大学の中だけで完結するより、こうやって街に開かれている方が絶対に良いと、学生を教える立場になってあらためて感じます。

Nakanoshima Campus Story.1

川を眺めながら通った、元「おけいはん医学生」。

仲野 徹さん(大阪大学大学院医学系研究科教授)

1975年入学。大学3・4回生の頃に中之島の医学部で学んだ。久坂部さんとは同級生の友人で、ナカノシマ大学で行われた同級生対談は単行本にも収録されている。



今は関西電力の本社ビルが建つ場所に、食堂や雀荘があったとは想像できない……。

とんかつ ジミー

豚カツ一筋で40年以上。チーズの香りが食欲をそそる「炎の豚カツ」は当直明けの疲れた先生たちにも人気で、「ジミーに行けば昨日の当直がわかる」と言われたほど。☎06-6458-8567 11:00 AM～1:30PM頃 日・祝休



Dr.ナカノに聞いてみよう!

阪大医学部 Q&A

小説のモデルにもなっていると言われたり、阪大医学部と聞くと、「なんだかすごそう」と思ってしまう。ふつうの人にとっては、医学部というのもイメージ馴染みがない。というわけで、上にもご登場の仲野先生に教えていただく。

Q1 どんな組織なのですか?

世間では「阪大医学部」と呼ばれていますが、ホームページを見てわかるとおり、「大阪大学大学院医学系研究科・医学部」と形式的には二つに分かれています（実際にはほぼ完全にかぶっているのですが）。医学系研究科が大学院で、医学部がいわゆる学部です。不思議なことに医学系研究科の方が立場が上というのか、主たる組織になっています。そして、医学系研究科には医学専攻と保健学専攻が、医学部には医学科と保健学科があります。病院は医学部附属ですが、病院長も医学研究科長（医学部長を兼任）と同じく、大学内では対等な地位である「部局長」です。中之島時代は医学系研究科・医学

店めぐりも楽しかった、 阪大秘書時代。

林田敦子さん(元・大阪大学医学部秘書)

1980年代後半から、医学部で1年半、阪大病院で12年間、秘書として勤める。薬剤師としての知識も活かし、教授や医師にとって頼れる存在だった。平成5年(1993)の中之島から吹田への移転も経験。



出入橋にある洋食の[インペリアル]は、ちょっとリッチな気分でランチを楽しめるとあって、秘書の中でも人気だったのだとか。

医学部や大学附属病院には、先生方のお手伝いをする秘書がたくさん働いています。講義で使うレジュメの用意や、研究会のための資料づくり、論文に引用する文献を取り寄せたり、ビペットを洗うなど研究補助のような役割もあるんです。



堂島川にかかる田養橋では、白衣を着た秘書仲間とすれ違うことも多かった。

最初は医学部の方に勤めたのですが、中之島に来る学生さんは3回生以上で、実患者さんとも接するようになり「さあ本腰を入れて勉強するぞ」という時

「医学部と病院を行き来する時に渡る、田養橋から眺める風景が好きでした」
期。大学とは言えウキウキ感はあまりなく、キャンパスと言うよりは研究所のような感じでした。
反対に、病院で勤務するようになってからは一気に人が増えて、忙しい時は人に酔うような気分になったことも。そんな時、医学部やダイビルにあった銀行へ行く用事があると、田養橋の上で川を眺めて一息つくのが好きでしたね。医学部の敷地内にあった図書館も好きでした。医学部は古い建物ばかりでしたが、そこだけは絨毯が敷いてあって、上品だったんです。
楽しみだったのはやっぱりお昼ご飯。



インペリアル
オムライスやハンバーグなど正統派の洋食メニューと昔ながらのインテリアで、大阪洋食の定番中の定番店。☎06-6458-1359 11:30AM~2:30PM 土・日・祝休

「インペリアル」は先生によく連れてきてもらいましたね。先生2人と秘書が4人とか、和気あいあいとして楽しかったです。お店もたくさんあって、仕事帰りに前を通ると知っている顔を見つけて入ってみたり。おらかな雰囲気、街を包んでいたように思います。

「川を見ながらのんびりできたから、ココアショップになったのかもしれない」

土佐堀川沿いでお店を始めたのが昭和47年(1972)のこと。たまたま筑前橋の南詰めにあったビルを見つけ、窓から川が見える眺めが気に入って、それだけで決めたんです。

医学部の学生さんはよく来てくれました。みなさん紳士的で、話は面白いけれど礼儀をわきまえているという感じがしました。中には、歯の骨格模型を目の前に置いて、ぶつぶつ会話をしながらトーストとココアを食べているようなちょっと変わった学生さんもありましたけどね(笑)。

医学部のキャンパスには、よくお昼

Nakanoshima Campus Story.3

阪大生がこよなく愛した、 川の見える喫茶室。

[ココアショップ 赤い鳥] 村田紀美代さん



ココアショップ 赤い鳥
土佐堀の店は昭和63年(1988)まで営業。卒業アルバムにも載るほど、阪大生に愛された店だった。現在は心斎橋で営業(大阪市中央区心斎橋筋2-7-25 金子ビル2F)。

いんじゃないかと思っていました。お店のお客さんと歯学部先生がおられて、その先生のところへ歯の治療のためにうかがったこともあります。そうすると実習中の学生さんたちが大勢いてみんなで診られるんですよ(笑)。驚いて止めてしまいました。

当時はほんとにのんびりしてました。最初はココア専門店をやるつもりはなかったんです。ココアは手間がかかりますから、朝からひっきりなしにお客さんが来てせかせかしていたらできない。橋を見ながら、川をゆく船を見ながらできたから、ココアショップになったのかもしれない。

部が中之島に、病院が堂島川をはさんで北側(今のほたるまちの場所)にありました。もう少し前、昭和の最後くらいまでは、中之島に歯学部と歯学部附属病院、それに大阪大学の本部もありました。

Q2 学生数や男女比は？

ここからは中之島での歴史が長い医学部医学科に限って話をしていきます。一学年およそ100人です。1980年代頃までは120人でしたが、医師が余るのではないかとわれ、長らく100人の時代が続きました。しかし、逆に最近になって医師不足が叫ばれ始め、今は110人になっています。ただし、留年する学生がいたりするので、実数は学年によって差があります。

110名のうち10名ほどは、他の学部からの編入者です。この編入学制度は30年以上前に阪大医学部が全国で最初に始めたもので、今は全国の医学部でおこなわれています。少し前まで3年次に編入でしたが、医学知識が膨大になってきて教育内容が前倒しになっているために、今は2年次の秋というちょっと中途半端な時期になっています。

大学によつては半分くらい女子医学生というところもありますが、阪大は20、30人と少なめです。それでも昔は120人中数人でしたから、ずいぶんと増えています。かつては女の子はまじめによく勉強するイメージでしたが、今は男女平等という感じです。

阪大には医学部の学部生が650名くらい、医学専攻の博士課程大学院生が700名弱ですから、学部生よりたくさん大学院生が在籍しています。

Q3 先生の数はどれくらい？

医学部は病院もあるので、「先生」はも

のすごい数になります。いわゆる常勤で任期がなくて定年まで居座ることのできる教員だけでおよそ400名です。内訳としては教授、准教授、講師がだいたい60人ずつで、助教が240人くらいです。これだけの「先生」がそれぞれの講座(会社で言う部署みたいなもの)に属しています。

講座は大きく臨床系講座と基礎系講座に分かれます。例外もありますが、患者さんを診察するのが臨床講座、研究と教育だけをしているのが基礎講座です。給料は基本的に同じです。

基礎講座には生化学や分子生物学といった純粹に基礎的なものから、病理学や薬理学といったやや応用的なもの、そして法医学や公衆衛生学といった社会医学系も含まれます。臨床講座は内科、外科、小児科などおなじみの名前が並びます。教員の数は臨床と基礎でおよそ3対1くらいです。

Q4 有名な研究を教えてください。

阪大医学部出身で文化勲章を受賞された先生が4人おられます。卒業後に生化学の早石修先生、細胞融合の岡田善雄先生、がん遺伝子の豊島久真男先生、免疫学の岸本忠三先生です。それぞれに素晴らしい研究で、ノーベル賞を受賞しておられるのもまったく不思議のない業績です。現役では、日本に五つしかない「世界トップ拠点」の一つである免疫学フロンティア研究センターの拠点長である齋藤静男先生がおられます。自然免疫という分野の大家で、論文が引用される回数は世界一！何年か前にわずかなところでノーベル賞を逃されたのが残念です。

医学部の得意な研究分野を一つ挙げるなら、やはり免疫学でしょう。岸本先生、齋藤先生、それに現総長の平野俊夫先生も免疫学ですし、お弟子さんにもたくさん

名物学生食堂 [くじらや]を訪ねる。

吹田キャンパスにある食堂[くじらや]は、中之島時代からなんと50年以上にわたり営業中。店主の大道保昭さんは御年75歳。高校卒業後、キタにあった[浜グリル]で修業。家業を継ぐ形で[くじらや]の厨房へ入った。「私の師匠は横浜のホテルニューグランド出身で料理はすべて手作り。だからここで出す料理はカレーもマヨネーズもぜんぶ手作りですよ」。阪大医学部関係者なら知らない人はいないと言われ、平成5年(1993)の移転時には、学生がお別れパーティーを開いてくれた。一昨年には驚田清一前総長から感謝状も。ちなみに屋号の由来は、家業がもともと鯨肉の販売だったからだそう。



なぜいま「海の大阪」なのか。

大阪はもともと海辺の街として発展してきた都市。今でも大阪はちゃんと海の都市なのです。水都大阪という言葉が定着してきつつあるなかで、18のお話を通して水都の本質に迫りました。

◎第1回(2012年10月号掲載)

ミックスジュースは
港湾ローカルフード船旅の視点で語る
海の大阪

港的風景をゆく(1)

川口—開港地と工場街

◎第2回(2012年11月号掲載)

海と陸の接点
—内港に残るクレーンユニークな景色に
出合える港

港的風景をゆく(2)

北村—クブングワの記憶

◎第3回(2012年12月号掲載)

瀬戸内フェリーの
ススメ自転車でめぐる
港湾エリアの楽しみ方

港的風景をゆく(3)

築港—めまぐるしく変わる
港湾風景

◎第4回(2013年1月号掲載)

埋め立ての進展と
その環境お好み焼きは
港が作った?

港的風景をゆく(4)

伝法—消失景としての港

◎第5回(2013年2月号掲載)

近代大阪の
港と交通船長から見た
大阪港と川

港的風景をゆく(5)

北加賀屋—産業化遺産と
クリエイティブビレッジ

◎第6回(2013年3月号掲載)

大阪港から
生まれた商社港に住むということ
—築港に引越してみて

港的風景をゆく(6)

咲洲—港湾風景の現在形

月刊島民のバックナンバーはこちら→<http://nakanoshima-univ.com/about/tomin.html>

「海の大阪」の冊子、4月完成予定!

(仮)「海の大阪」18の物語+大阪の港を知る資料集

当研究会では、「海の大阪」についての研究報告書冊子を作成します。全6回の連続講座の内容や、大阪の港を知る資料集を1冊に取り纏めており、「海の大阪」について深掘りができる内容になっています。今回、特別に増刷しますのでご希望の方は、予約申し込み下さい。なお、冊子には限りがありますので、先着順でのご提供とさせていただきます。

名称 (仮称)「海の大阪」18の物語+大阪の港を知る資料集
発行 都市大阪創生研究会ワーキンググループ
完成時期 2013年4月上旬(予定)
発行協力金 1,000円(予定)+送料
予約申し込み先 都市大阪創生研究会ワーキンググループ事務局
E-mail: uminoosaka@gmail.com FAX: 06-6532-3939まで
【〆切3月30日まで】

●上記連絡先へ、①お名前、②ご住所、③ご連絡先(E-mail or 電話番号)を添えて、「海の大阪冊子希望」と明記のうえ、ご連絡ください。●冊子が完成次第、発行協力金のお支払方法などご連絡差し上げます。

「海の大阪」連続講座

都市大阪創生研究会では平成24年度の活動として、大阪と海の関係をもつめなおし、生活や産業のなかでの水都大阪を探検してきました。あまり認識されていないけど大阪はやっぱり海の街だからディープな海の物語がたくさんごろがっているのです。そのなかからとっておきの「海の大阪」を、全6回でお伝えしました。延べの参加者は245名、大勢の方に楽しんでいただきました。

◎平成10年にスタートした都市大阪創生研究会は、行政と民間のパートナーシップによって新しい時代に向けての都市のリン・ペー・ションを実現するため、大阪の未来とそこへ至るべき道を考える場として活動が続けています。

3/12(火)

ナカノシマ大学スペシャル トーク&サイン会

「あの頃、ふらふらしてました(苦笑)」①

ゲスト:春野恵子さん(浪曲師)

ナカノシマ大学スペシャル講座の第1弾は、浪曲師として大活躍中の春野恵子さんをゲストにお招きしてのトーク&サイン会。「進め!電波少年」のケイコ先生で一躍有名人となった春野恵子さんは、東京大学教育学部健康教育学科卒業という経歴の持ち主。学生時代の話も気になる所だが、ある分野からまったく違う分野へと突き進むところなどは、医師で作家の久坂部さんと共通する部分も多いはず。



日時/3月12日(火)
7:00PM~8:30PM(開場6:30PM~)
会場/中之島バンクス de sign de > cafe
入場料/1,500円(ワンドリンク付き)
◎お申し込みはいつものナカノシマ大学と同じ方法で(→P13参照)

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	24
24	25	26	27	28	29	30

3/19(火)

ナカノシマ大学3月講座も久坂部さん登場!

「大阪弁と小説のいい関係」

対談/久坂部 羊(作家・医師)×金水 敏(大阪大学大学院教授)

話者の性格や職業・年齢などと深く結びついた「役割語」。その面白さについて、久坂部さんと、言語学研究の第一人者で役割語の概念を提唱した金水敏先生が対談。大阪弁を上手く活かした小説作品を読みながら、奥深い役割語の世界にもご案内!



日時/3月19日(火)
7:00PM~8:30PM(開場6:30PM~)
会場/堂日会館
入場料/1,800円
◎お申し込みはいつものナカノシマ大学と同じ方法で(→P13参照)



吹田キャンパスには、医学部の長きにわたる歴史についての展示が見られる医学資料室がある(銀杏会館1階)。

しかし、中之島に医学部と病院が残っていたらどれだけ良かったかと思うことがあります。学生のアンケートでも何人かがぼやいています。中之島にも毎年たからこそ、いつか偉くなって北新地で豪遊したる」などというプリミティブな欲望も湧いたのですが、千里ではなかなか。

あと、中之島時代からあった「エルメレンス」という大昔の大先生を顕彰する碑が移されて、今も前庭に置かれています。一部の人は、山崎豊子の『白い巨塔』が阪大医学部をモデルにしたと思込んでいて、そのエルメレンス顕彰碑を見て、「これがあの白い巨塔やな」と誤解していたそうです。白くも巨大でもないんですけどね。

もうほとんどなくなってしまうかもしれません。でも、秋にある医学部の大学祭は大学全体の大学祭とは別の日程で、昔を懐かしむかのように「中之島祭」の名で開かれています。毎年けっこうな人が来ますから、興味があればぜひ見に来てください。

Q5 中之島時代の名残りは? 優秀な先生がおられますから。しかし「何が強い」よりも、阪大の場合は「層の厚さ」の方を誇るべき。研究科や学部は教育という側面もあるのですから、何かに突出しているから良いというものではないかもしれません。わからないことがあればいつでも聞きに行けるという状態が一番心強いのです。

神戸でもあります!

3/16(土)

第8期 灘大学 第6回講座「六甲文化村秘話」

灘中、灘高があるのなら灘大学があってもいいじゃないか、という軽いノリで開校した「灘区の最高学府」。神戸市灘区に関わるものならウルトラセブンから横尾忠則まで強引に振り下げる講座を毎年開講。この講座では、かつて小説家、画家、音楽家が闊歩した阪急六甲で生まれた文芸誌「VIKING」について、久坂部さんを招いてローカルトークセッションを展開。

日時/3月16日(土) 10:00AM~12:00PM
会場/灘区民ホール1F会議室
申し込み/住所、氏名、電話・FAX番号、E-MAIL(あれば)、参加人数(グループ申し込みは2名まで)を記入の上 FAX(078-843-7034)で申し込み ※3月8日締め切り
参加費/500円
問い合わせ/灘百選の会事務局 ☎078-843-7001(内線223)

『ブラック・ジャックは遠かった』
刊行記念イベントもあり!久坂部羊さんに
会いに行こう。

単行本の発売を記念して、ナカノシマ大学でもスペシャル講座を開講! 豪華なゲストを招いて学生時代の思い出を語るものなどテーマもいろいろ。島民諸君、本の発売を一緒に祝おうではないか!

3/29(金)

ナカノシマ大学スペシャル トーク&サイン会

「あの頃、ふらふらしてました(苦笑)」②

ゲスト:中島岳志さん(北海道大学准教授)

ABCテレビの報道番組「キャスト」のコメンテーターとしてもおなじみの中島岳志さんがスペシャル2回目のゲスト。中島さんは京大大学院時代にインドを訪れ、現地のヒンドゥー・ナショナリストと共同生活を送るなど、「勉強」以外にも多くの時間を費やした。一見すると無駄のようにも思えるそうした時間は、どのように活かされているのだろうか。勉強以外に学生生活の大半をかけた久坂部さんと共に語り合っていたらこう。



日時/3月29日(金)
7:00PM~8:30PM(開場6:30PM~)
会場/中之島バンクス de sign de > cafe
入場料/1,500円(ワンドリンク付き)
◎お申し込みはいつものナカノシマ大学と同じ方法で(→P13参照)

2／8 第6回講座をふり返って

大阪港から生まれた商社

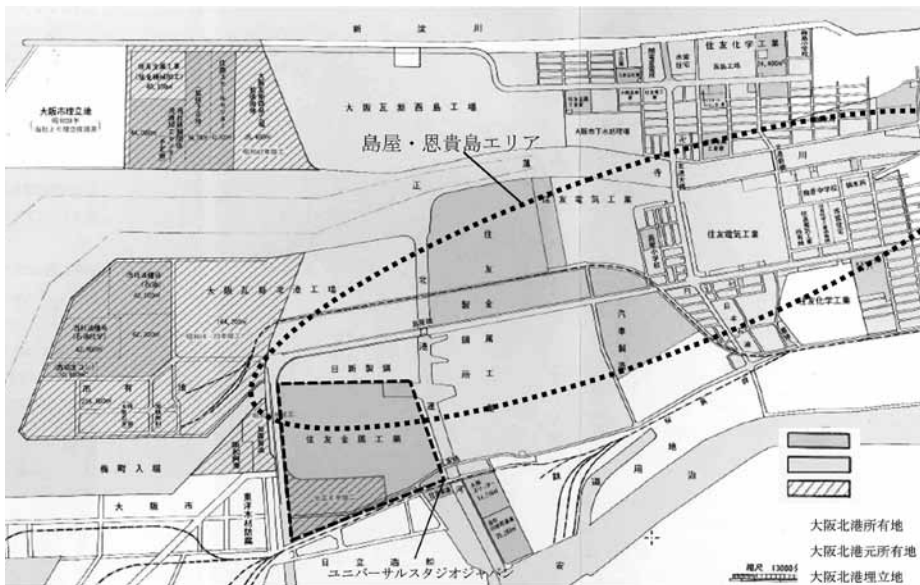
松本晃・藤原雅

北港開発のきっかけ。

現在USJのある北港エリアは、その開発のきっかけが、住友家が経営する江戸時代の愛媛県別子銅山でのコメ不足だとされています。幕府からの払下げ米が不足したため、住友家が、幕末から明治にかけて、北港エリアの島屋・恩貴島一帯の土地を購入しました。直接には別子銅山で必要となる米の確保のために取得した土地だったものの、それ以上に、大阪の将来の発展が、広大な、当時は未開地の北港エリアにも及ぶと予想して、将来的に事業用地としても利用することも視野に入れていたと思います。現に、住友金属工業（現・新日鉄住金）の母体は、北港エリアで設立された明治30年（1897）の住友伸銅場、明治34年（1901）の住友鋳鋼場であり、北港エリアは工場用地として利用が進められました。

住友商事の母体の誕生。

大正に入り、北港エリアの大地主であった住友家は、財政難に苦しんでいた大阪市に代わり、北港エリアの一部の埋立て、開発事業を行うようになりました。その後、住友家は、大阪港の



住友商事
株式会社社史
(昭和47年12月5日)
大阪北港埋立地

で大正8年（1919）に大阪北港という会社を設立しました。この会社は、当時、湿地に近い島・中州であった土地を埋め立て、造成・整備し、土地を賃貸、売却することにより、収益事業として北港エリアの拡大を進めていきました。この会社が住友商事の母体となりました。

工場用地が、USJに。

その後も北港エリアは工場用地として発展しましたが、一部の用地に関しては用途が変換されていきました。USJのアトラクショ

ンの敷地がまさにその一つです。前述の住友鋳鋼場は、明治40年（1907）に北港エリアの島屋町というところに工場を新築して移転しましたが、そこが、現在のUSJの敷地の一部になっています。

USJの敷地は、住友商事ら民間企業がUSJに賃貸しています。北港エリアの土地は、当初は米作、その後は工場用地、そして現在では一部が商業施設用地として利用されるなど、産業構造の変化に合わせた土地利用の転換により、明治時代から100年以上もの長期間に渡り有効活用されてきました。

日本一の設計会社の独立。

戦後、大阪北港は社名を日本建設産業と改称していましたが、昭和24年（1949）頃から本格的な戦後復興の建設工事が増加したため、昭和25年7月に設計・建設部門を独立させ、日建設計工務（現・日建設計）が設立されました。日建設計工務は、その後は活発な発展を遂げ、数多くの著名なビルへの設計監理を引き受け、わが国を代表する設計監理会社の1つとして建築業界で活躍しています。

2／8 第6回講座をふり返って

港に住むようへいす

築港へ引越つてみて

高見恒祐
(「AOフランチング&デザイン」)

高度成長期に重工業中心の臨海工業地帯と住工混在の街として栄えた大阪のベイエリア。そのため「労働者の街」のイメージが強い。市内の新築住宅着工戸数では、大正・港・西淀川・此花区が下位を占めている。果たして港は住みにくいのか？ 以下、築港へ引越した筆者がその暮らしを通じて感じたことをご紹介したい。

不便を愉しむ港ライフ。

まずは海や運河などを眺めることのできる候補エリアを地図上で絞った。そして、不動産屋さんを巡り、築港で一つの物件と出合った。外観はごく普通の賃貸マンションだが、ベランダからは港大橋の眺望が広がり、部屋の中へと港町の雰囲気が入ってくる物件だ。僕の港ライフはここからスタートした。

築港には、レトロで趣たっぷりの近代建築や海遊館などの集客施設があるほか、港大橋や巨大クレーン、コンテナなどの港の風景も楽しめる。これらを眺めながら開放的な海辺を散策できる（1周4km／約1時間）のも魅力のひとつだ。

港では「橋を渡る」「渡船で渡る」が不可欠だ。一般的に不便な行為は毛嫌



港大橋が見える私の部屋の様子

いされるが、（誤解を恐れずに言うところ）こうしたものは不便であってほしい。

以前、箕面に住んでいた頃、阪急千里線淡路駅以北では、電車が低速（各駅停車）で街を通過するスピード感が好きだった。時間に追われる都心から長閑な郊外へ切り替わるようだった。

港も同じだ。巨大橋頂部の爽快感や、渡船場スタッフと挨拶を交わす人々。渡船の待ち時間は風にあたり佇むだけでも心が穏やかになる。ここには北摂とは異なるタイプのスローライフがあるのだと思う。

そして、夜の帳が下りると心のアンブにスイッチが入る。ノスタルジックで情緒豊かな港町に酔いしれ、心も温

かくなる。西の海に沈む夕陽は、港湾構造物のフォルムを美しく切り取る。日中は無骨で人を寄せ付けない港湾構造物が、一変して心にくぐとくる。僕はそんな港の俳優の虜になっていた。

多文化が入り交じる。

物流仕様につくられている港町は、大街区で歩道も広くジョギングやサイクリングに超おススメだ。また、大正区の子蔵橋を往復する「大正区ファミリーマラソン」や俊足の神「繁栄草駄天尊」を祀る市岡の繁栄商店街のアーケード内100m走、「大阪ごちそうマラソン」などスポーツを活用した地域振興も近年、注目が集まる。

一見、商業施設が少ない感はあるが、大通りから一本中に入った商店街では買い物客をよく見かける。近所にある八幡屋商店街は、港中央市場と八幡屋市場が隣接し新鮮な魚や果物も手に入る他、韓国・四国・沖縄の物産屋台も並ぶ。また周囲の銭湯は、関西型と関東型が混在し、多文化が混じった下町ライフがとても新鮮に映る。

港区民の誰もが知るタウン誌がある。1983年創刊の老舗誌『みなとQ』と、2011年創刊の新誌『MuCha』。

どちらも主婦目線で地域の魅力を紹介し、特に『MuCha』は、オシャレな紙面と充実したコンテンツが若い主婦にも好評でとても無料とは思えない。

新参者にできること。

知人の紹介がキッカケで、地元まちづくり団体（天保山みなアート会）へ顔を出させて頂くようになった。すると、飲食店主・アーティスト・外国人等、地元の方々との交流が急に広がり、「築港キャンドルナイト」という地域イベントのお手伝いもさせてもらった。

港では高潮など不安面がとてつもない。防潮堤や防潮扉、水門等のハード整備はもちろん、高潮時に現場へ急行する水防団も組織されている。彼らは地域に在住在勤の住民で構成されるが、新住民の中には知らない人も多いだろう。新参者の僕だが、少しずつ地域に溶け込みながら、彼らと肩を並べ語り合えるようになって初めて港住人と呼べる日が来るのだろう。

天保山みなアート会の定例会の様子(CASOにて)



咲洲のターニングポイント。

ニュートラムの中ふ頭駅北にある「セルフ喫茶&食堂エル」は、倉庫会社や物流会社の人たち、トレーラーの運転手で賑わう。作業服はまちまちで、それぞれ別の職場で働いていることが分かる。店の経営者から、こんな話を聞いた。「咲洲のもととの開発計画は石油コンビナートだったが、アラビア石油の誘致に失敗し、急遽港湾施設を整備した」。

咲洲は、人工島である。着工は昭和8年(1933)。アラビア石油に100万坪の敷地分譲の申込みを受け、開発面積を大きく拡張したが、昭和39年(1964)、同社は国の石油政策の変更を理由に契約をキャンセル。軌を一にして、世界中を巻き込む物流革命が起こった。

アメリカのトラック運送会社の経営



マルク・レヴィンソン著『コンテナ物語』

者、マルコム・マクリーンは、輸送ユニットを統一規格のコンテナとし、鉄道・トラック・船によるシームレスな貨物輸送システムを考案、実現した。コンテナ輸送は、貨物輸送のコストと荷役にかかる時間、盗難や破損などのリスクをドラスティックに圧縮した。革新的ゆえに、非合理的な慣習を温存してきた海運業界や、旧システムに過大な投資をした行政、雇用機会を失う荷役労働者たちなどから抵抗や妨害を受けたが、時代は徐々にコンテナリゼーションの方向に進んでいった(『コンテナ物語』)。

近代物流革命と大阪。

コンテナリゼーションは、大阪にとって対岸の火事ではなかった。マクリーンによる初コンテナ輸送の11年後、昭和42年(1967)には太平洋航路へのフルコンテナ船就航が決定。大阪港でもコンテナ船社の誘致、定着を図るために、水深の深い岸壁と広い後背地を有する埠頭の整備が求められた。



咲洲のコンテナ埠頭の風景。

要件を満たす立地は在来の埠頭には存在せず、折しも開発計画の見直しを求められていた咲洲に白羽の矢が立った。咲洲のコンテナ埠頭は昭和44年(1969)に完成をみている。

日雇労働者を組織し、または家族経営などの零細規模で荷役を行ってきた港湾運送業界は、高度化という課題を突きつけられた。課題を前向きに受け止め、ターミナルオペレーターへと発展していく事業者もあったが、多く

は合併や廃業を余儀なくされている。より深刻な立場に置かれたのは、港湾労働者であった。はしけ労働者の数は、昭和46年(1971)からの5年間に半減している。

コンテナリゼーションがもたらす未来。

大阪におけるコンテナリゼーションの進展は、内港エリアから咲洲への中枢機能のシフトという形で実現している。衰退した内港エリアには、かつて港があった痕跡が色濃く残されているが、コンテナリゼーションに対応して設計された咲洲には、喫茶店や立呑屋、居酒屋など、港に住み、働き、訪れる人々の息づかいが聞こえてくる現場が、あらかじめ失われていたのである。

大阪港は平成16年(2004)、神戸港と広域連携した「阪神港」として、スーパースーパーの指定を受けている。大阪港側ではさらなる効率化を目的に、咲洲のコンテナ埠頭の一部を夢洲(ゆめしま)にシフトさせる計画を進めている。現在のコンテナ埠頭は、フェリーや一般貨物埠頭に転用される予定である。このシフトは、咲洲の風景にいかなる変化をもたらすのだろうか。



◎今月の授業

【歌謡曲】2013年4月講座 「中之島の歌 ザ・ベストテン」 講師／輪島裕介(大阪大学大学院准教授)



ヒット曲から知られざる名曲まで、中之島を彩る歌謡曲の数々を、気鋭の音楽史研究家と共に聞きながら味わう。

月刊島民2月号で特集したように、中之島や北新地、御堂筋といった街はよく歌の舞台になってきた。誌面では歌声や音楽性は伝えられなかったの、その曲の数々を実際に聞いてみようというのが今回のテーマ。中之島の歌を聞くレコード・コンサートのような趣向だ。

講師は2月号で戦後の大阪の歌謡史を

めぐる論考を寄稿してくださった大阪大学大学院の輪島裕介さん。「たそがれの御堂筋」「中の島ブルース」「大阪の女」などなど、その中に登場した曲をかけながら、大阪という街と歌の関係性をお話しいただく。

会場となるのは、土佐堀通沿いに新しくオープン予定のカフェ「ブルックリン・

わじま・ゆうすけ 1974年、石川県金沢市生まれ。大阪大学大学院文学研究科音楽学研究室に在籍。専攻はポピュラー音楽研究、民族音楽学、大衆文化史。「演歌」のルーツと「日本の心」と言われるまでになった「偽史」を丹念に追った「創られた「日本の心」神話」(光文社新書)でサントリー学芸賞受賞。



ロースティング・カンパニー)。窓の外はすぐ土佐堀川という抜群のロケーションで、昭和の歌が映し出す、あなたと街の人生劇場に思いを馳せてほしい。

募集要項	「中之島の歌 ザ・ベストテン」	お名前・ご住所・電話番号を明記の上、下記までハガキ、ファックス、もしくはHP内の応募フォームからお申し込みください。ハガキ、ファックスについては、複数名でご参加希望の場合は、人数分の必要事項を明記してください。ハガキ、ファックスでお申し込みの方は、講座名を必ずお書き添え下さい。
	日時／2013年4月12日(金) 7:00PM～8:30PM(開場6:30PM) 会場／ブルックリン・ロースティング・カンパニー 受講料／2,000円(ワンドリンク付き) 定員／50名 主催／ナカノシマ大学事務局 協力／大阪21世紀協会	〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階 「ナカノシマ大学4月講座」受付係 FAX.06-4799-1341 ※先着順で受付を確認し次第、順次、受講票をお送りします。 ※定員に達した時点で申し込みは締め切らせていただきます。



今月のテーマ【書店員】

駅と並んで月刊島民の配付場所として多いのが中之島周辺の書店。
そこで活躍する書店員みなさんにご登場いただく。
取材・文／青木雅幸 大迫 力(共に本誌)



商店街からバイクで参上。

あつぱれ!

西日本書店 本店 槌賀啓二さん

毎日、店のスタッフと手分けして「島民」エリア中心に本の配達をしています。私自身は店の仕事と車での配達が多いのですが、配達部隊のメインは今でもお店にある4台のバイクが中心です。もちろん安全第一ですが、本の到着を心待ちにされているお客さんに少しでも早くお届けできるように心掛けています。いつでも「島民」のみなさんの本の宅配サービス承ります!

なるほど、書店員には外回りの方もいるのですね! 胸にプリントされたロゴマークが素晴らしい。自分が何者であるかを示すというのは大事です。近ごろよくあるネックストラップなんかよりもずっと良いですね。このバイクのカラー、渋いなあ。もしかして看板の色と合わせているのでしょうか。なかなかやるなあ。

紀伊國屋書店 本町店 久保田啓子さん

私が入社してから今の制服(エプロンと長・半袖シャツ)で3代目ぐらいなのですが、ポケットが多くて、すごく動きやすく一番気に入っています。個人的には半袖のシャツが好きで、着ているとエネルギーが湧いてくる感じで「仕事するぞ」と自分の活力になっています。その元気がお客さんやお店の中に伝わって、満足度の高いお店にしていきたいと思っています。

モノを棚に陳列したり運んだりすることの多い物販系の職種の方は、実はシャツの袖口が汚れやすいんですよ。だから、その意味でも、半袖にするのは正解だと思いますよ。まさしく書店の中で動き回るためのスタイルという感じがしますね。



ギャラリーとカフェに合うように。

文教堂 中之島フェスティバルプラザ店 榎 弘さん

店ではスーツが多いです。淀屋橋odona店の店長も兼任していて、土佐堀川沿いを通して、1日最低1回は行き来しています。最近始めた特急便サービスが好評なんです。お昼の2時までに注文いただき、もう一方の店に在庫があれば、夕方5時までに持って行くものです。フェスティバルホールが開業すれば人もさらに増えますから、今はそれまでの「種まき」の時期ですね。

ネクタイの上からエプロンというのは、飲食店のギャルソンのスタイルを見てもわかる通り、おかしなものではありません。このエプロン、軽そうで良いですね。たかがエプロンといっても、長時間付けているとけっこう疲れるものなんです。



審査員／大平秀峰さん
「ゴッドハンド」とも呼ばれる繊細な採寸テクニックと、サービス精神たっぷりのトークで多くのファンを持つ。現在はご自分の店を開店するために準備中(?)。中之島に近い場所でオープン、との噂も。



気合がみなぎる半袖シャツ。

カロ ブックショップ&カフェ 石川あき子さん

服やエプロンは、ギャラリーとカフェもある店の雰囲気に合わせています。ギャラリーの展示物や芸術系の本が多いので、自分は黒子に徹しています。派手な色だとケンカするので、自然と黒や紺の濃い目のものが多くなりますね。これだとカフェで出しているカレーのルーが飛んでエプロンが汚れても悲しくならないから(笑)、ちょうどいい感じなんです。

書店の業務だけでなく、カフェやギャラリーなど、何職もこなさないといけないとはお忙しいですね! 作品などとのコーディネートも考えなければいけませんし、制服のない高校のような大変さがあるのではないのでしょうか。現代の書店員スタイルですね。



土佐堀川沿いを毎日往復。

大阪市民にすれば、勝手に徳川軍の本拠とされ、気が付けば敗軍の地。ヘタすれば賊軍のレッテルを貼られかねない状況に呆れ、かつムカついていた。そんな矢先「遷都」の噂が流れたのだ。「京は因習に囚われているので新しい政治を執り行うには不都合である。この際、人心を一新するためには大阪

大河ドラマ「八重の桜」は昨年より好調のようだが、前半の山場になるであろう戊辰戦争までは持ちこたえて欲しい。その端緒となるのが、慶長4年(1868)正月、大阪城に陣取った徳川軍と京にいた新政府軍とがぶつかった「鳥羽・伏見の戦い」である。圧倒的な軍勢を誇った徳川軍の勝利と思いきや、寝返りが続出し、最後にはわか仕立ての「錦の御旗」が新政府軍に掲げられ、徳川軍は総崩れとなり数日で決着した。

150年前の「大阪都」(?)構想。

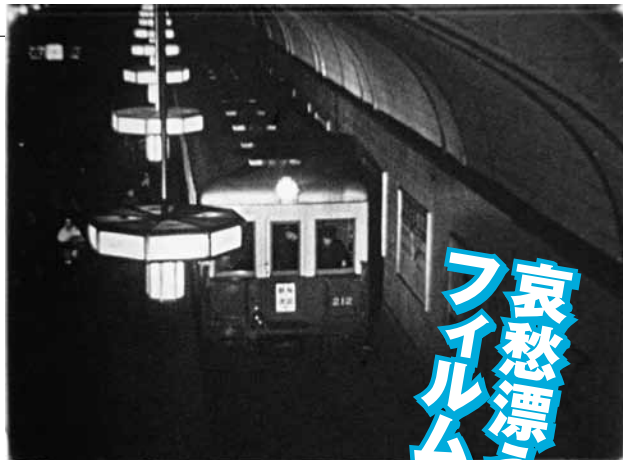
に都を遷すのが最適である」と、大久保利通が主となり建白書を提出した。もともと「大阪遷都論」は彼以前にも唱える者はあったが、大久保は維新の重鎮であるだけに現実味があつた。「造幣局の建設が決まったらしいで」「こらホンマに首都になるで」「ほたら、大阪弁が日本の標準語や」「天皇はんは何処にお住まいになる?」「そら大阪城やろ」

しかし、2月を待つことなく大阪遷都案は却下され、江戸(東京)が首都と決定した。しかし、その理由がケツタイである。

- 一、大阪は日本の中央ではない。
- 一、軍艦の寄港する港がない。
- 一、道路が狭い。
- 一、市街地が狭い。
- 一、官庁とする建物がない。
- 一、大阪は首都にならなくても

衰えない(江戸はこのままでは危ない)。市民は「遷都」話は皆の不満をそらすためのものであつたと気付くと共に「アホらし。そんなもんイランがな。しょうもな」と口にしたに違いない。きよくどう・なんかい

1964年、兵庫県加古川市生まれ。大阪大学卒業前(1989年)に三代目旭堂南庵に弟子入り。1998年大阪市より「咲くよこの花賞」授賞。得意ネタに「太閤記」「難波戦記」「浪花俠客伝」「三満宮霊験記」など。



《地下鉄の出来るまで》(1938年/15分)



溝口健二《浪華悲歌》(1936年/72分)



伊奈精一・溝口健二《朝日は輝く》(1929年/25分)



溝口健二《浪華悲歌》(1936年/72分)



まだまだ見頃！
大阪水上バスの観梅クルーズ

哀愁漂う大阪の姿が
フィルムでよみがえる

映像表現にまつわる美術作品を定期的に公開してきた国立国際美術館の上展会「中之島映像劇場」。今回は東京国立近代美術館フィルムセンターと共催し、消えつつある貴重なフィルムで映画作品を公開することとなった。その作品テーマは「戦前・戦中」。熱心なコレクターからの寄贈品

も含め、なかなかお目にかかれない貴重な資料ばかりだ。公開される映画はすべて1930年代までに作られたもの。安治川沿いの倉庫爆発火災を記録した『大阪倉庫の爆発』や、日本最初の市営地下鉄誕生を描いた『地下鉄の出来るまで』などの記録映画のほか、大阪弁のセリフを効果

的に盛りこんだ劇映画『浪華悲歌』も。サイレントからトーキーまで、モノクロながらも、大阪というエッセンスを要所でしっかり感じ取ることができる。文楽劇場や天王寺動物園といった次々と写りこむかつての大阪を、現代の姿と見比べてみて面白いかもしれない。(江口由夏・本誌)

「浪花の映像の物語」
東京国立近代美術館フィルムセンター所蔵作品から
日時/3月16日(土)・17日(日)
1:00PM~(記録映画編)/3:00PM~(劇映画編)
会場/国立国際美術館 地下1階講堂
定員/先着130名
入場/無料・各プログラム入替制
(※各日10:00AMより、1名につき1枚の整理券配布)
問い合わせ/ ☎06-6447-4680

大阪水上バスでは、ただいま「観梅ランチクルーズ」の運行真っ最中。おなじみのグルメ・ミュージック船「ひまわり」で帝国ホテル特製の豪華ランチをいただいた後、大阪アメニティパーク港で「アクアライナー」に乗船。大阪城公園の梅林近くにある大阪城まで船旅を楽しむコースだ。大阪城をバックに水上から眺める梅林は美しく、下船後は梅林を自由に散策できる。大阪城二の丸地区に広がる梅林地帯には、1000本以上の梅が植えられており、その種類もさまざま。3月が見頃の遅咲きの梅もあるので、まだまだ見頃は続くというわけだ。

大阪水上バス「観梅ランチクルーズ」
期間/3月17日(日)まで ※月曜運休
時間/12:00PM~2:00PM
(ランチクルーズのみは1:20PM下船)
料金/A:4,725円 B:6,300円
乗船場/OAP(大阪アメニティパーク)港
申し込み/要予約・参加前日まで受付
予約・問い合わせ/
大阪水上バス・ひまわり予約センター
☎06-6942-6699(9:00AM~6:00PM)

島民にはおなじみの大阪水上バスも、今年の10月で開業30周年を迎える。季節ごとに工夫をこらした例年のクルーズのほかに、周年記念チケットや文化対談など、色々な展開を企画中。この春以降の取り組みを楽しみに待とう。(江口由夏・本誌)

島民歓迎イタリア文化会館の
朝日新聞ビルお別れ会



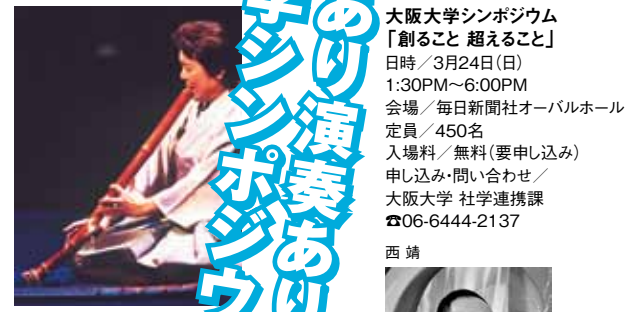
をいって一番最後まで残らせてもらいました。だから、お世話になったビルにありがとうの気持ちとお別れのあいさつを込めたパーティーを開くことにしたんです」と、コンサートを企画したミケランジ

Grazie al vecchio edificio.
Festa d'addio all'Asahi Shimbun Bldg.
朝日新聞ビルに
感謝の気持ちを込めてお別れ会
日時/3月23日(土)4:00PM~6:00PM
場所/イタリア文化会館大阪
図書室(朝日ビル11階)
入場料/無料
申し込み/電話もしくはメールにて
☎06-6229-0066 corsi.iicosaka@esteri.it



平田オリザ

藤田喜久雄



中村明一

大阪大学シンポジウム
「創ること 超えること」
日時/3月24日(日)
1:30PM~6:00PM
会場/毎日新聞社オーバルホール
定員/450名
入場料/無料(要申し込み)
申し込み・問い合わせ/
大阪大学 社会学部
☎06-6444-2137
西 靖



座談会あり演奏ありの
大阪大学シンポジウム

2011年にアイルランドから中之島に上陸した「アイルランドフェスティバル」も今年で3回目の開催「セントパトリクスデー」という祝日を記念し、日本と遠く離れた

アイルランドの文化交流を願う、アイルランドにゆかりや興味のあるボランティアが作り上げたお祭り。その珍しさが受け、エリアや開催日程も拡大。今回は八軒家浜をスタートし、大阪城まで続くパレ

ードや、中之島を横切った難波をゴールとする生演奏付きクルーズが予定されている。シンボルカラーであるシャムロック(三つ葉)の緑色を身に付けて、参加してみよう。

アイルランドフェスティバル
in Osaka 2013
会場・日時/八軒家浜/とんぼりリバーウォーク
3月17日(日)11:00AM~4:00PM
大阪スカイビル・ワンダースクエア
3月23日(土)~24日(日)11:00AM~8:00PM
入場無料・荒天中止
問い合わせ/INJ大阪 ☎090-4297-1810
※最新情報は公式ホームページにて
http://irishnjosaka.web.fc2.com

第5回目となる大阪大学シンポジウム、今回のテーマは「超域」。専門を超えてフレキシブルに活躍できる人物こそこれから求められると考え、それほどのような人物像かを語る。

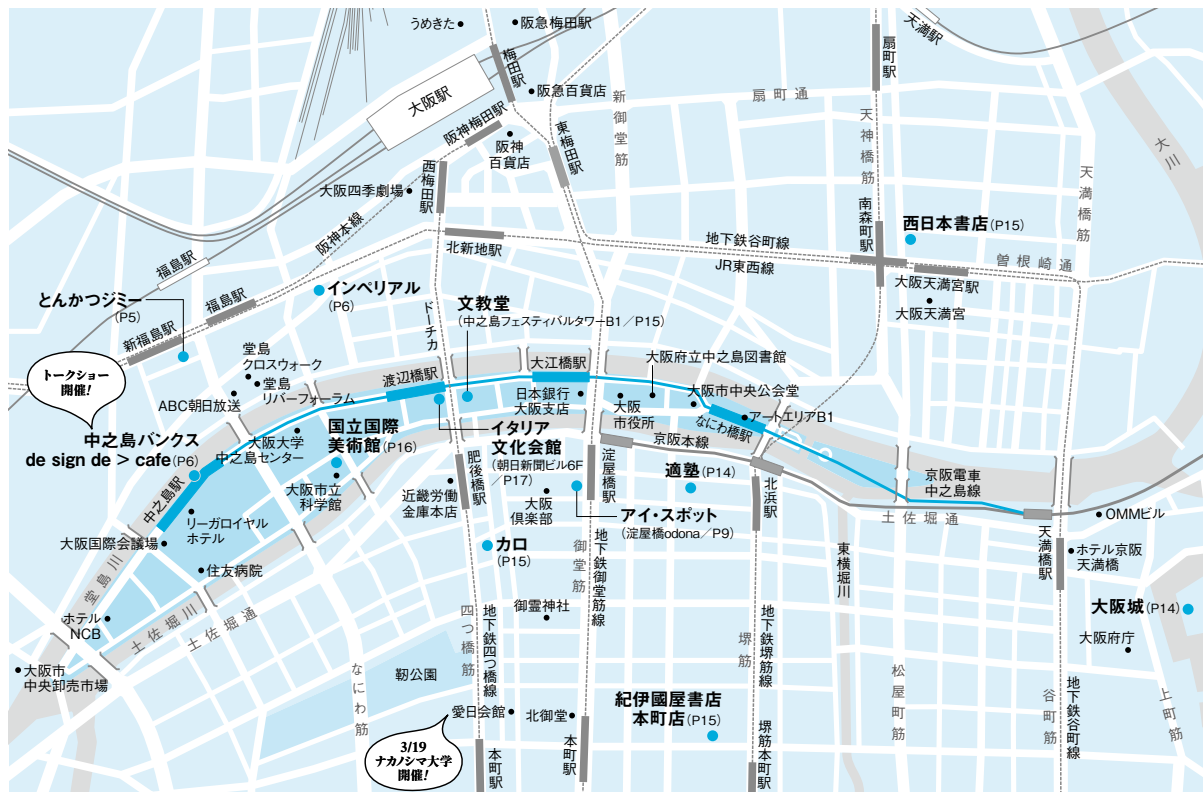
登壇するのは阪大からは平田オリザ氏、藤田喜久雄氏の面教授。演劇と工学、それぞれの専門分野を超えた視点から講演と座談会を行う。

さらに尺八演奏家の中村明一氏も登場。化学を極めながらも伝統音楽に魅せられ転身したという希有な経歴の持ち

主で、その経験から「超域」について語る。関西ではめったに聴くことができない演奏にも耳を傾けよう。

大「島民」MAP

橋を渡って通う人、川を見ながら帰る人、
みんな「島民」です！



『月刊島民』はここでもらえます。

●京阪電車関連 京阪電車主要駅／京阪シティモール／京阪モール／デリスタ天満橋店／ホテル京阪天満橋／ホテル京阪京橋
●大阪市北区・中央区・福島区 【書店】旭屋書店 梅田地下街店／旭屋書店 堂島地下街店／カペラ書店／紀伊国屋書店 本町店／ジュンク堂書店 大阪本店／ジュンク堂書店 梅田ヒルトンプラザ店／ジュンク堂書店 天満橋店／MARUZEN&ジュンク堂書店 梅田店／スタンダードブックストア／天守閣書店 大江橋店／ブックファースト 梅田店／ブックファースト 淀屋橋店／文芸堂書店 淀屋橋店／隆祥館書店
【公共施設・大学関連施設など】アイスポット 朝日カルチャーセンター／味の素 食のライブラリー／ABC朝日放送／大阪企業家ミュージアム／大阪倶楽部／大阪国際会議場／大阪市中央公会堂／大阪市立中央図書館／大阪市役所市民情報プラザ／大阪城天守閣／大阪商工会議所／大阪大学中之島センター／大阪21世紀協会／大阪府立中之島図書館／大阪フィルハーモニー会館／大阪ボランティア協会／大阪歴史博物館／追手門学院 大阪城スクエア／関西学院大学 大阪梅田キャンパス／慶應大阪リバーサイドキャンパス／国立国際美術館／CITY NAIL'Sインターナショナルスクール／芝川ビル／市立まいわ情報センター／中央電気倶楽部／ホテルNCB／メビック福町／立命館大阪オフィス／龍谷大学大阪梅田キャンパス
【店舗・医院など】アリアスカ マーブルトレ／アンドール 本町本店／上町貸自転車／Ultra 2nd／江戸前鰻料理 志津可／天満橋鍼灸整骨院／MJB珈琲店／大西洋服店／000(オー)／カセッタ／喫茶カンターロ／喫茶SAWA／グランドスイート中之島／黒門さかえ／コモカフェ／サトウ花店 中之島本店／ザ・メロディ／じろう亭／Girond's JR／心斎橋山田兄弟歯科／住友病院／セブンイレブン大阪証券取引所店／タビエスタイル／ティーハウスジカ／たまがわ鍼灸整骨院／東郷歯科医院／NAKAGAWA1948 淀屋橋店／ナンジー／バスターレー／花かつ／BAR THE TIME 天神／平岡珈琲店／ビルマニアカフェ／フレイムハウス／ミニジロー／宮崎歯科／やきとり ばかや／吉田理容所／ラクカーニャ／LES LESTON
●大阪市内その他 【書店】伊勢屋書店 大阪書店／紀伊国屋書店 京橋店／なんばミヤタ／福島書店／柳々堂／ループル書店 【公共施設・大学関連施設など】大阪市社会福祉研修・情報センター／大阪市立図書館／川口基督教会 【店舗・医院など】あじさい／アートアンドクラフト／欧風食堂 ミリパール／大阪市信用金庫 江戸堀支店／御船かもめ／Cale Bookshop and cafe／写真とプリント社／鳥かごキッチン／ネイルサロン スワンナ／バルビコ／ホステル64オオサカ／MANGUEIRA／Loop A
●大阪府下 旭屋書店 京阪守口店／学運堂 フレスト店／Books 呼文堂／水嶋書房 くずはモール店／水嶋書房 くずは駅店／大阪狭山市立図書館／大阪大学企画広報・学芸連携事務局／大阪大学 21世紀懐徳堂／大阪大学本部／寝屋川市役所／摂南大学 地域連携センター／郵政考古学会／ゆったりんこ
●大阪府以外 ジュンク堂書店 西宮店／水嶋書房 丹波橋店／伊丹市文化振興財団／大手通リストリートギャラリー 街・発信／納屋工房／タバーン・シンパソン／百練／奈良県立図書館情報館

◎バックナンバーお譲りします。

バックナンバーをご希望の方には1冊100円(手数料)でお譲りしています。
なお、品切れの号もありますが、予めご了承ください。お問い合わせは下記の電話番号まで。

編集・発行人／江 弘毅(編集集団140B)
編集・発行／月刊島民プレス
若狭健作 網本武雄(株式会社 地域環境計画研究所)
松本 創 大迫 力(編集集団140B)
〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階
Tel 06-4799-1340 Fax 06-4799-1341
制作進行／堀西 賢(ALEGRESOL)
デザイン／山崎慎太郎
表紙イラスト／奈路道程
印刷／佐川印刷株式会社



祝祭に包まれて

—わたしのフェスティバルホール—

取材・文／松本 創(本誌)

「ベルリン・フィ
ルやウィーン・フィ
ルとレッド・ツェッペ
リンが立った舞台なん
て、世界でもフェス
ティバルホール以外にない
と思うんですよ」

西部宏志支配人(51)の

言葉は、4年あまり前に聞
いた時と、ほぼ同じだった。

2009年1月発行の『月刊
島民』第6号。前年12月末で閉館

した旧ホールの歴史を振り返る記
事があり、西部さんがこう語っている。

「あらゆる音楽や公演に間口を開き、
しかも出演者は各ジャンルのトップ・
アーティストばかり」「歌舞伎の翌日
にハードロックをやるホールなんて、
そうないでしょう(笑)」

出演者の幅が広く、かつ、一流ぞろ
い。それはフェスティバルホールの特
徴であると同時に、ホールに関わる者
の誇りでもあった。

若い頃から劇場やホール運営の仕事
を望んだ西部さんだが、当初は少し志
向が違ったという。好きだったのは、
アンゲラな小劇場演劇、映画なら単館
上映のアート系。つまり、メジャーな
作品、誰もが知る『一流どころ』には
あまり縁がなかった。音楽にも、そん
な演劇や映画を通じて触れた。

「ところが、最初に赴任した広島朝



第5回
フェスティバルホール支配人
西部宏志さん

伝統と進化、 祝祭ふたたび。



開業を待つフェスティバルホール。基調となる色は「深紅」。これも旧ホールから継
承されたものの一つ。

日会館という映画館は880席もある
西日本有数の、いわゆるロードショ
ー館。その後、平成8年(1996)か
らフェスティバルホールで『手板』(公
演)の番組編成を担当しました。する
と、さまざまな世代や嗜好のお客さん
を意識し、接するようになる。終演後
に『よかった』って心から満足して帰
られるいくつもの笑顔を見るうち、多
くの人に喜んでいただける幸せを実感
するようになっていきました

「ね」

メジャーな舞台だから
こそできる発掘や挑戦も
ある。例えば平成11年(1
999)3月、『リバー
ダンス』の初来日公演。

「アイルランドの民俗音楽と舞踊を
もにした、アメリカでは有名なショ
ーです。当時、日本ではほとんど知ら
れていなかったんですが、素晴らしい
パフォーマンスに衝撃を受けました。
これだけ情報が氾濫する時代に、まだ
こんな知られざるものがあるのか、と。
1週間の公演は最後には満席となり、
その後、何度も来日しています」

中之島に一流のコンテンツを集め、
たくさんの人に届ける。その役目を旧
ホールから新ホールへと橋渡しするの
が、この5年間の西部さんたちスタッ
フの仕事だった。新ホールのオープン
が迫った今、続々と視察に訪れるアー

ティストたちを出迎えている。

「新しいけど、懐かしい」。パレエダ
ンサーの熊川哲也は舞台に立ち、感慨
深げに言った。4月20日には、新ホ
ールのパレエ初公演を飾る。

「以前と同じ『気』を感じる」と語
ったのは山下達郎。旧ホールを愛し、
建て替える誰よりも惜しんだポップス
の職人からの祝福の言葉だ。

「ここにはハーモニーがある」。指揮
者の大植英次は4月26日、大阪フィル
ハーモニー交響楽団を率いて、5年ぶ
り、第51回目となる「大阪国際フェス
ティバル」に登場する。曲目はマーラ
ーの交響曲第2番『復活』。
建て替えるに奔走した日々を西部さん
はあらためて振り返る。

「伝統の継承と進化。それが合言葉
であり、使命でした。新しいホールで
も、フェスティバルホールの精神をき
つと感じてもらえると思う」
春、祝祭の日々がふたたび幕を開け



2013年4月 オープン!

festival hall

www.festivalhall.jp/
提供／株式会社 朝日ビルディング

うまく着付け
できたかな。

中之島けい子

青柳小路

着物に挑戦!

チャレンジ!
おけいはん

Vol.1

おけいはん、 着物で祇園さんぽ

京阪電車にのって、祇園四条駅から、和服の映える花街へ。

おけいはんが自分で着付けて、祇園さんぽに挑戦!
実況ムービーやエリア紹介マップをweb上でご紹介しています。

チャレンジおけいはん

検索

チャレンジおけいはん
Facebook

@c.okeihan

おけいはん、
京阪の人。

※詳しくは、ホームページまたは京阪電車主要駅でチラシをご覧ください。

